

筑波大学附属坂戸高等学校

国際会議の成功は、日頃からの
ネットワーキングに依存する。

The 8th High School Students' International ESD Symposium @ Tokyo 2019
The 1st SDGs Global Engagement Conference @ Tokyo

November 7, 2019

国際教育推進委員会
吉田賢一



Mission

**国内外の高校生が課題研究・Social action
の成果を共有する場を提供するplatform**



2020年度の成果

- ① **オンライン国際会議の開催**
第9回高校生国際ESDシンポジウム
第2回SDGs Global Engagement Conference
- ② **課題研究活動は通常通り実施**
- ③ **Fieldwork（trial版）は国内にて**
@学校法人アジア学院



国際会議はできます。

オンラインの場合、かなり低コストで実施可能。

プログラム

●Keynote speech (30 minutes)

Masahisa SATO

(Professor, Graduate School of Environmental and Information Studies, Tokyo City University)

●Section Meeting (75 minutes)

- Section 1 Ethical Consumption
- Section 2 Changes in Asia, offered in English
- Section 3 Fieldwork facilitated by UTSS alumni
- Section 4-A Oral presentations in English
- Section 4-B Oral presentations in English
- Section 4-C Oral presentations in Japanese
- Section 4-D Special session (Agriculture and Sustainability)
- Section 4-E Special session (T-GAP)
- Section 5 1D session facilitated by IC-NET limited.

**9の分科会に分かれて
課題研究の成果発表
会を開催。**

●Review (10 minutes)

Nakao NOMURA (Associate Professor, University of Tsukuba)

秘訣① *Students-led-activities*

- ① 生徒が案件を作る。
- ② オーストラリアの高校との交流計画を策定。
- ③ 国際会議への参加。

生徒のアクションがESD
シンポジウムの参加校を
増やすキツカケに。



秘訣② *Alumni-led-activities*

- ① 卒業生が案件を作る。
- ② 海外姉妹校との交流会を設定。
- ③ 卒業生が分科会を開催。

卒業生どうしのツナガリが
ESDシンポジウムでの分
科会に発展。



- ・ 秘訣③「課題研究」を重視する海外姉妹校とのネットワーク

✓Forestry Vocational High School Republic of Indonesia

⇒Unit production (テーマ別課題研究)

✓Bogor Agricultural University Kornita Senior High School

⇒Karya tulis (個人研究)

✓University of the Philippines Rural High School

⇒Capstone project (個人研究)

✓Kasetsart University Laboratory School Bangkok Campus

⇒「卒業論文」

秘訣④国際会議に向けた校内の雰囲気づくり

- ①**毎年11月にESDシンポジウムがある。**
- ②**課題研究について発表する機会がある。**
- ③**11月を目指して生徒は活動し、教員は指導計画、及びフィードバックをしていく。**



グループによるソーシャルアクション（社会課題解決活動）

2 年次

3 月～6 月

7 月～8 月

9 月～10 月

11 月

✓思考法

✓社会課題の調査

✓ソーシャルアクションの
活動計画策定

アクション

✓フィードバック

✓報告会

ESDシンポジウム

個人研究活動「卒業研究」

2～3
年次

12 月～3 月

4 月 ～ 1 0 月

11 月

✓研究とは

✓先行研究レビュー

✓構想発表会

✓ゼミでの指導助言

✓調査、データ収集、分析

✓10月末：最終報告会

ESDシンポジウム

①より多様な参加者が集うESDシンポジウムへ。
ーアジア太平洋地域からより多くの学校を。

②海外姉妹校との協働プロジェクトの組成



結論－国際会議はできます。ただし・・・－

✓生徒、海外姉妹校、卒業生、民間企業、大学、すべてのステークホルダーとの日ごろからの関係構築が鍵。生徒は研究開発のパートナー。

✓11月にESDシンポジウムがあることを全員が意識することが鍵。

◎お手伝いできることがあれば遠慮なくご連絡ください。

